

看護教育

病院長
須藤 英仁



遅かった季節もようやく巡り、春爛漫の今日この頃です。皆様変わりはないでしょうか？

医療法人済恵会では今年も多くの新人を迎えることができました。この紙上でも自己紹介がされると思いますが今回は今年看護師の資格を得た4名について紹介したいと思います。4名のうち2名は富岡看護学校の卒業生です。他の2名は渋川看護学校の卒業生です。いずれも安中准看護学校を卒業しそれぞれの学校へ進学しました。富岡看護学校は夕方5時30分より講義が始まり、9時近くまで講義があります。この2名は昼間須藤病院で働いた後に学校へ通い見事に国家試験に合格しました。また渋川の2名は昼間の学校ですが土日の講義のない時は病院勤務もありそれぞれが大変忙しい生活を送り資格を得ることができました。私は毎年富岡看護学校の入学式に出席しますが、富岡へ向かう途中、一丁八丁の峠を越えるとき、どうぞ学生たちが交通事故も起こさず3年間無事に通学してくださいと願わずにはられません。渋川看護学校も安中からは遠距離です。昼間の学校とは言え毎日、毎日ラッシュ時間に往復60kmに及ぶ通学は本当に大変

であったらうなど改めて思います。このように、本当に大変な学習環境の中、渋川看護学校の国家試験の合格率は100%でした。富岡も大変立派な成績でした。全国的な看護師国家試験の合格率は90%以下ですので、この両校の成績がいかにか素晴らしいかお分かりになると思います。また合格率を検証すると高校卒業して4年生の看護大学（もちろん昼間の授業で、教育期間も1年長い）の合格率が軒並み80%台ということです。恵まれた学生生活を送れたはずの大学卒業生の合格率の方がはるかに低いのです。このことは一面日本を象徴しているような気がしてなりません。つまり過保護で何でも与えれば勉強する、又は成果があがると思っている親たちがあまりにも多いということかもしれません（私も含めて）。また親はいつまでも生きていたいと思っている若者のハングリー精神の欠如が問題なのかもしれません。

当院の看護師の70~80%はこのような苦勞しながら看護師になりました。一人一人の学生時代の苦勞を思い出しますが、この苦しい学生時代を経ることにより人間的にも大きく成長したと感ずることができるとは病院長として大きな喜びでもありました。今年の卒業生を含め当院の看護師一人一人がこんな苦勞しながら育ってきたことを知って頂けたら幸いです。しかし看護師の資格を得てもこれからが本当の教育の始まりです。患者さんの協力を得ながら立派な看護師に育てることは私の最も大きな責務と考えております。どうぞ温かく見守って頂き看護師として大きく羽ばたけますようご声援よろしくお願いいたします。

老人保健施設めぐみ

支援相談員 古島 隆矢

いつも介護老人保健施設めぐみをご利用いただき、ありがとうございます。今回はめぐみでの食事に関する取り組みをご紹介します。私もそうですが、誰にとっても楽しく食事をするという事はとても幸せな時間だと思います。それは年を重ねて高齢になり、要介護状態になっても変わらない事だと思います。

私達はめぐみをご利用されている方々に、少しでも喜んで頂けるように、行事食として季節折々に合った物をご用意させていただいたり、利用者様と職員が一緒になって、協働し、手作りのおやつを作ったり、ドリンクバーをご用意させていただいたりといった事を定期的に行なっております。これからも利用者様の皆様に喜んでいただけるよう、取り組んでまいりますので、何かご意見やアイデア等がございましたら、遠慮なく職員までお知らせ下さい。宜しくお願い致します。



手作りおやつ（桜餅）



年末恒例の餅つき



ドリンクバーのクリームソーダ



チャーハンの実演